

平成18年度宍粟市一般会計歳入歳出決算の認定について 討論

賛成討論

実質収支額約3億6千万円の黒字となり、翌年度へ繰り越される黒字決算となっている。歳入面で市民税の定率減税が半減され、2.5%増や所得譲与税が増になったことなどによる収入増がある反面、普通交付税の算定基礎となる人口で国勢調査の結果、5.6%という大幅な減収となった。

また、歳出では最小の経費で最大の効果をあげる姿勢で取り組まれ、予定の事業はほとんど実施しながらも、不用額も多く出し、執行割合は97.6%となっている。更に、行政改革では職員数の削減や調整手当の廃止など人件費をはじめ、事務的経費の節減など努力の結果が随所に見られる。実質公債費比率が19.7%となって、財政の硬直化は依然として高い水準である。今後、財政の見通しや計画をきっちり立てて行財政改革を推進し、組織のスリム化、職員の資質向上や意識改革を図り、無駄を省く努力をされたい。

反対討論

日本共産党議員団を代表して、一般会計決算に対する反対討論を行う。2006年度当初予算は、白谷市政の初めての本格的な予算であり、その特徴は、合併協定の無視、福祉サービスの大幅な切り捨てと住民負担の大幅な増加、そして、不要・不急の事業は温存にあった。

1点目には、新庁舎着工は県庁舎、各市民局庁舎などの有効利用を含めて、宍粟市がしっかりと落ち着いた時点で建設すべきであり、拙速すぎる。

2点目には、一般職員の給与が、実質的には長期間にわたり、昇給のない状況になっている。

3点目には、消防本部の「消防力の基準」による充足率によると、56%とのことであり、山崎断層による地震災害等を想定するとさらに充足率を引き上げる必要がある。

以上主な点を指摘して討論とする。

討論の結果、賛成多数で認定されました。

一般質問 問&答



いたみが目立つ
山崎商店街の石畳

市長

情報の交換や県における対応など、よくし

問 高嶋県議が「公立病院の医師不足問題を考える」とした広報を出されています。県議とこの問題について協議されたか。政治的には、宍粟市の代表は高嶋県議と市長だ。2人が協力してこの問題に対応された

市長

宍粟市の地域医療の拠点で、整形外科常勤医師確保に最大限の努力をしている。

問

整形外科常勤医師不在は、この関連治療での入院ができない状況となっている。市民は、遠くの病院に入院し、費用・看護などに大変苦労されています。市長は、宍粟総合病院をどのような病院にされようとしているのですか。

答

医師確保に最大限努力している

問 宍粟総合病院整形外科は

伊藤 一郎 議員

ている。

国道29号高校生自転車通学

問 国道29号、田井橋、清野橋間は、自転車通学では危険。負傷者も出ている。

土木部長

地形的な制約があり、具体的な計画はないが要望していく。高等学校は、通学路の指定モルルート設定もしていない。

山崎商店街の補修は

土木部長

H19年度内に、特殊モルタルによる工事を総道神社、中央通りまでの間で部分補修として165m実施します。

もみじ山のシカ被害について

市長

酒屋さんの先代が、2千本のモミジを植えられる。シカ防護ネットで守っています。モミジの名所としていきます。